

# アパレル系講義科目におけるLMSを活用した アクティブラーニングの試み

## The trial of active learning which utilized LMS in the lecture course about the apparel

服飾美術学科 田中 早苗

アパレル系講義科目において、学生がアパレルにより一層興味や関心を抱くことをねらいとしてLMSを使用したアクティブラーニングの実施を試みた。アパレルについて多少の知識を持ちはじめ、就職活動を意識しはじめる3年生を対象に、学生が最も興味の対象とするアパレルの事柄に着目させ、テーマ設定・調査・プレゼンテーションをさせた。学生が着目したアパレルの事柄は今後の授業展開にも活かすことができる。今年度から導入したLMSのmanabaを利用して、テーマの提出・レポート提出・管理を行ない、従来から在るLMSのe-kaseiでプレゼンテーションの評価を行わせた。その結果、アパレルへの理解、発表がよかった、楽しかった、意欲が出た、プレゼン作りが良かったなどの反響が得られた。

### 1. はじめに

平成24年の中央教育審議会答申以降、アクティブラーニングの奨励により、教育工学や様々な学問分野に研究事例が見られるようになった。本学においても市丸らによるアクティブラーニングのためのマネジメントシステム開発が報告され、ネットワークの高速化とスマートフォンの普及がアクティブラーニングを容易にする<sup>1)</sup>と述べている。本学の学生のスマートフォン所持状況は数年前からあまり変化は見られず<sup>2)</sup>、1クラスに1～2名所持していない場合でも、貸出し用端末を用意するなどして一斉授業での使用が可能である。また、学生と教員で双方向のやりとりを管理するためには学習管理システム（以下LMS）が有効である。著者が担当する講義科目は、アパレル生産の仕組みや流れを理解させる科目であるが、一方向の知識伝達に陥りやすく、いかにして能動的学習を展開することができるかが大きな課題であった。所属する学科の学生は、本来アパレルやファッションに関心を持って入学し、さらに3年前期開講の『キャリアガイダンス』で社会の流れやファッション業界について学び、アパレルに様々な分野があることを知り、自身の将来設計と重ねる。この時期に学生はアパレルのどのような事柄に興味を持つのか。学生が興味を抱くアパレル分野に触れることにより、一方向の講義においても学生の理解や取り組みに変化が生じるのではないかと期待した。学生の関心度の高いアパレルの事柄を今後の講義内容に活かすことができる。このような背景から、学生自身が興味のあるアパレルに関する事柄を調査することを課題として能動的学習を試みた。学生は就職活動を前にプレゼンテーションにも関心があるので、レポートはプレゼンテーションソフトで作成し口頭発表させた。提出管理には、今年度から新しく導入されたLMS：manabaを用いた。本研究の目的は、大学3年生が興味を持つアパレル分野の実態を知ること、講義科目でアクティブラーニングを実施すること、LMSがアクティブラーニングを支援し得るか否かの検証、そして新しいLMSのシステムと機能を理解するための試行であった。

### 2. 方法

#### (1) 実施科目と課題のねらい

アクティブラーニングを実施した科目は服飾美術学科3年前期開講の『アパレル生産論』、履修者数63名、実施期間は課題の提示から発表まで2017年5月初旬から7月中旬までの約2か月間であった。『アパ

『アパレル生産論』は衣料サイズ、パターン設計、裁断縫製、縫製機器、生産管理などアパレル生産の仕組みと生産工程を学ぶ衣料管理士の推奨科目である。既製服生産の作業手順の伝達になり兼ねない内容を含んでいる。一方、学生は同時期の開講科目の『キャリアガイダンス』で社会の流れやファッション業界について学び、就職活動を見据えてアパレル産業に関心を持ち、就職活動で求められるプレゼンテーション能力をいかにして身につけるか意識し始める。このようなことからレポートの課題は、アパレルに関連する事柄で自ら課題を見つけ、調査してプレゼンテーションソフト（例えばパワーポイント）で6コマ程度にまとめて提出することとした。事前にテーマを提出させて授業で公開し、発表を聞きたいと思われるテーマに投票をさせた。

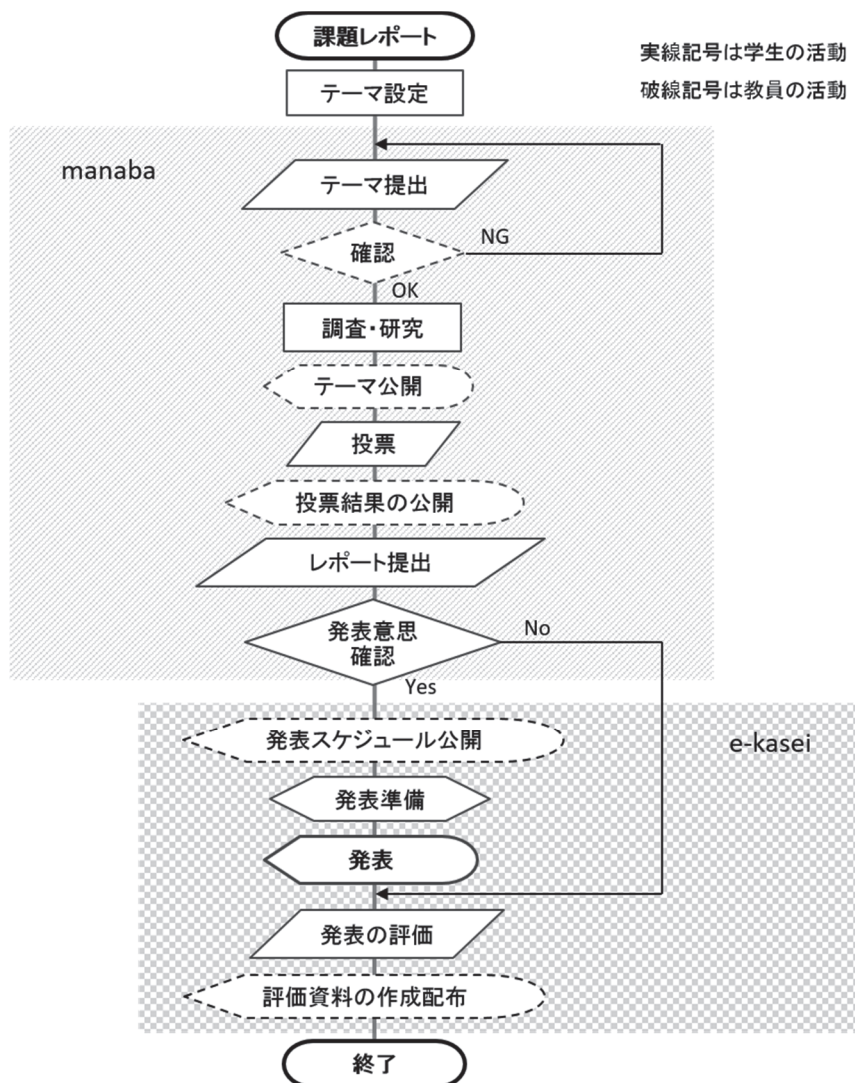


図1 学習活動フローチャート

## (2) manabaによる提出管理

図1に学習活動のフローチャートを示した。チャートの実線記号は学生の学習活動、破線で示した記号は教員の活動を示している。チャートのテーマ提出からレポート提出までの活動はmanabaを使い、発表スケジュールの公開から評価資料の作成配布まではe-kaseiを使った。テーマ提出は、manabaのアンケート機能でレポート課題の内容を提示し、必須記述欄にテーマを記入して送信させた。履修者全員がmanabaを閲覧できる環境にあるか否かが不明であったので、学内のパソコン室やアパレルCAD室の端末も使用するように促しテーマ提出に2週間の猶予を与えた。その後提出したテーマが課題の趣旨に適合しているか、テーマに偏りがないか等を検討し、manabaのポートフォリオ機能を用いて問題のない学

生にはOKを、改善の必要のある学生にはコメントを加えて回答、OKの回答を得た学生は調査を開始し、改善を要する学生はテーマを再提出させた。テーマが出揃ったところでテーマの一覧を授業で公開、再びmanabaのアンケート機能で‘発表を聞きたい’‘興味がある’テーマ3つを番号で選んで投票させた。3テーマ選ばせたのは1つに絞るのは難しいと考えたからであるが、3テーマ選ばせたことによってmanabaからダウンロードしたExcelの集計シート、ひとつのセル内にカンマで区切られたCSV形式であることが判った。これをセルごとに区切られた形式に修正し、Excelの数式を用いて集計を行なった。

次に、投票結果を授業で公開し、得票数の多かったテーマを設定した学生にプレゼンテーション資料作成と発表への意欲を促し、レポート提出期限を2週間後とした。当初、得票数の多かったテーマのみを発表させる予定であったが、ほとんどのテーマに必ず1票は投票されており、得票数が少なくても興味深いテーマが見られたので、発表を辞退した学生以外は全員発表することとし、レポートの提出とともに発表の意思確認をメールで行なった。

### (3) e-kaseiによる発表評価アンケート

発表スケジュールは、発表を辞退した者以外のテーマを類似性により4つのカテゴリに分けて公開し、1回の講義に6～7テーマを発表させた。発表時間は1テーマにつき3～5分、質疑応答の時間も設けて質問や発言を促した。また、他者の発表に耳を傾けさせるために、‘発表の評価をしましょう’と題し、出欠確認も兼ねてアンケートに回答させた。図2にe-kaseiの発表評価アンケートを示した。アンケートの内容は発表を非難することのないように、説明が上手である、細部までよく調べている、プレゼンのまとめ方が上手である、テーマにオリジナル性がある、の5択のうち1つにチェックを入れ、その他特記すべきことを30字以内で記入させた。e-kaseiのアンケート機能は容易にグラフに表わされるので、特記事項に貼り付けて発表者に配布する資料を作成した。発表者は自分の発表が5択のうち最も特徴的で優れていたことは何かを知ることができる。この評価資料は当初予定していなかったが特記が予想以上に多く、適確

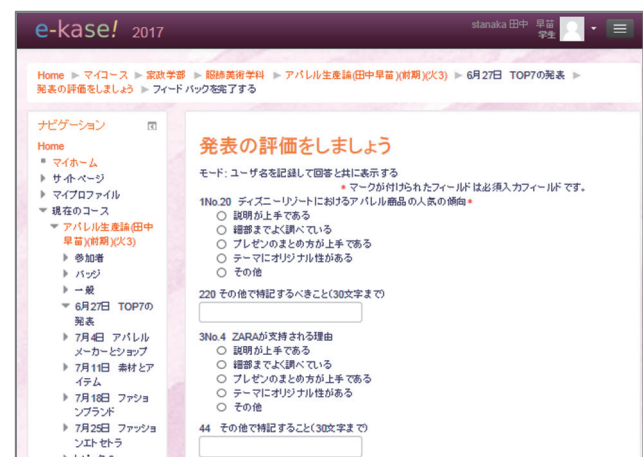
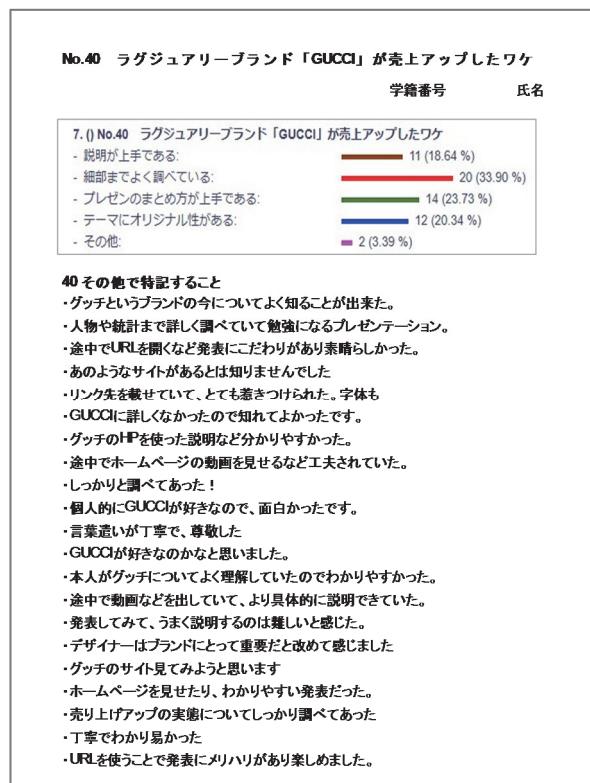


図2 発表評価資料 (左) と e-kaseiの発表評価アンケート (右)

## 3. 結果

### (1) 提出状況

テーマの提出状況は、履修登録者数68名のうち期日までに提出してOKとなった学生が42名、テーマ

に修正を要して再提出となった学生が10名、再々提出が10名であった。修正を要するテーマとは、他者と内容が重複しているもの、例として「原宿系ファッションと渋谷系ファッションの違い」「渋谷系ファッションブランド 繁栄と衰退」など、テキストに書いているもの「VMDとは」「ODMとOEMの各特徴と比較」など、テーマが漠然として内容を絞ったほうがよいもの「グレーダーについて」「パタンナーについて」などであった。テーマ提出の時点で履修中止と思われる未提出者は4名であった。

レポートの提出状況は、期日までに提出が47名、期日後に提出が10名、催促によりメール添付など別手段で提出が2名、未提出は3名であった。

### (2) テーマの投票結果

表1に発表テーマ一覧に示した。投票結果上位7位がTOP 7である。得票数が最も多かったテーマは「ディズニーリゾートにおけるアパレル商品の人気の傾向」17票、次いで「ZARAが支持される理由」11票、「調査！メインマネキンの着用による購買影響」10票、「ラグジュアリーブランド「GUCCI」が売上アップしたワケ」8票の順であった。投票者62名×3票で合計186票は大きく偏らず、各々の学生の趣向が投票結果に現れていた。発表を辞退しなかった学生は36名、テーマの類似性によりアパレルメーカーとショップ、素材とアイテム、ファッションブランド、ファッションエトセトラの4つのカテゴリに分けて1テーマ3～5分、1日に7～10テーマを5回にわたって講義の始めに発表させた。また、発表の後に質疑応答の時間を設けたが、日ごろ学生は質問に慣れていないので質問をする学生が数名に限定された。

### (3) 発表に対する評価

‘他者の発表をよく聞くこと’を促すためのe-kaseiによる発表評価アンケートは出欠確認も兼ねて、発表のある毎時間にテーマごとに回答させた。図2の発表評価資料に示したように‘その他で特記すべきこと’は、どのテーマに対しても15～20のコメントがほぼ適確に書かれていた。成績評価は、レポートの内容と提出状況、発表評価アンケートの提出状況を対象とし、この度は発表をしたか否かについて成績評価の対象にしなかった。

### (4) 授業アンケートの結果

平成29年度前期授業アンケートの数値データ(科目平均点)は、ごく平均的な結果であった。「この授業に集中していたか」、「教員の説明はわかりやすかったか」が3.35点で高く、「小テストやレポートその他の課題が出だされたか」が3.16点と低かったのは疑問である。しかし、表2に示した自由記述の意見感想には57名中49名が記述を書いており、意欲が出た、自主性があった、楽しかった等、これまでの授業アンケートでは出現しなかった単語が見られ、反響の大きさが認められた。図3は自由記述を要点でまとめたグラフである。発表をすること・聞くことがよかった28%、楽しい・意欲が出た・自主性があった11%、プレゼン作りが良かった9%は、アクティブラーニングの効果と言える。

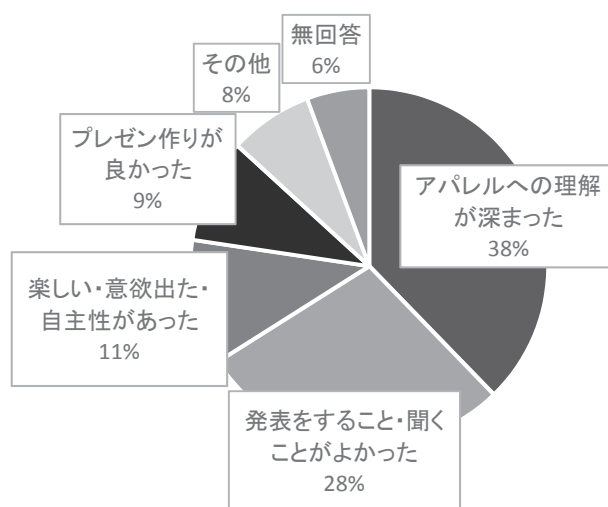


図3 授業アンケートの自由記述より要点による集計結果 (回答率 75%)

表1 発表テーマ一覧

**TOP7の発表**

- 1 ディズニーリゾートにおけるアパレル商品の人気の傾向
- 2 ZARAが支持される理由
- 3 調査!メインマネキンの着用による購買影響
- 4 ラグジュアリーブランド「GUCCI」が売上アップしたワケ
- 5 ファッション業界とSNSの関係性
- 6 丸和繊維工業の動体裁断ドレスシャツについて
- 7 繊維開発東レについて 新繊維 液晶ポリエステル繊維シベラスを使った衣類

**アパレルメーカーとショップ**

- 1 アパレル業界社員の離職率について
- 2 アパレルのプロパー消化率について
- 3 アパレル企業のセール商品の利益率について
- 4 アパレル業界内競争の2極化
- 5 ファッション小売業態の変遷
- 7 ショッピングモールが売上を伸ばしている理由
- 8 アパレル小売業態の現状とこれからについて
- 9 百貨店の現状とこれから
- 10 卸問屋の戦略

**素材とアイテム**

- 1 名前の由来から学ぶテキスタイル
- 2 絹はなぜ今日まで着装されているのか。
- 3 日本市場のハリスツイード
- 4 デニムの始まり
- 5 骨格分析による適合コーディネート
- 6 急成長アパレル企業マッシュスタイルラボについて

**ファッションブランド**

- 1 株式会社ストライプインターナショナルが度々ブランドを買収するのはなぜか
- 2 アパレル業界売上不振のなか、しまむらが売れる理由
- 3 この時代、ブランドとして生き残っていくためには
- 4 海外ブランドと和文化のコラボ
- 5 ハイブランドとファストファッション
- 6 ファストファッションとエシカルファストファッションについて

**ファッションエトセトラ**

- 1 ファッションになぜ流行が存在するのか 7/18から移動
- 2 古着・ヴィンテージファッションについて
- 3 メンズライクファッションの起源と装い
- 4 成人式における振袖の利用形態
- 5 韓国の子供服について
- 6 デニムの始まり
- 7 ハンドメイドにおける販売方法の比較

表2 授業アンケートの自由記述

項番	意見、感想
1	特に無し
2	ありがとうございました
3	アパレルについて学べて面白かったです
4	パワーポイントをまとめるのを一生懸命やっただ
5	学生生活の中でパワーポイントを使用することがなかったので、社会人になる前に使用することが出来て良かった。
6	意欲を持って取り組めた。
7	深くまで学習することができてよかった。
8	みんなの課題を聞くことで、自分の知らなかったアパレルの世界が広がり、とても楽しかったです。また、課題などにならないとにかを深く調べることはあまりないので、自分にとっても良い経験となりました。
9	いろいろな人の発表を聞いておもしろかったです！
10	パワーポイントを作って、他の人の発表を聞いて、パワーポイントをどう作ったらみやすいか、どのように発表したら聞きやすいか分かったし、内容も初めて知ることや面白い内容もあったのでよかった。
11	アパレルのことがよくわかった
12	一年の時の応用ができてよかった。
13	レポート発表が面白かったです
14	発表をする機会はなかなか無いため貴重な体験ができた。
15	最後にパワポの発表があって色々なことが知れました。
16	パワーポイントでまとめる課題があったおかげで自分でパワーポイントをまとめる力がついてよかった。
17	アパレルについて幅広く知ることが出来た。
18	プレゼンテーションをする場があった。
19	色々な人の発表をかけるのはとても勉強になり楽しかった。
20	調べ学習で、色々な面からアパレルを捉えられるのが良かった
21	発表などで知らないことを色々知れました
22	今まで学んで聞か事と違った観点で学習ができました
23	課題のテーマ決めるのが一番悩みました。
24	教科書の内容が興味深かったです
25	アパレルについて理解が深まりました。
26	パワポの発表を全員分聞くことで、色々な人の考えや自分の知らなかった知識を多く得ることがあり、とても楽しく授業を受けることができた。
27	授業の内容に合わせた、映画や動画を見たり教えてくれたりして分かりやすかったです。
28	自分でテーマを決めて、調べることによって理解が深まりました。 みなさんの発表も聞いてたくさん発見がありました。
29	みんなの発表が面白く、とても勉強になりました。
30	ファッションを生産の視点からみることができた。
31	みんなのレポートから沢山学ぶことがあった。視野が広がった。
32	自由にテーマを決めて調べ、発表する課題があったため、自主的に考える機会があった。
33	よくわかりました。
34	専門的なアパレルのことを講義やビデオ、発表などを通じて理解できました。
35	為になった
36	パワーポイントの発表でわかりやすく理解も深められた。
37	パワーポイントでの発表でいろんなことを知れて良かった。
38	普段の授業で服についての知らない知識をつけるだけでなく、最後のパワーポイントを使って服について調べたことをまとめて人前で発表するということは、とても考えさせられたし、力がついたと思う。
39	自分が着ている衣服がどのように製造されて私たちが買うに至っているのか、知ることができた。発表も様々なアパレルに関する話を聞くことができ、よかった。
40	あまり作らないパワーポイントを作る良い機会でした。
41	パワーポイントの発表で生徒のオリジナルのアパレルについてのことを知ることが出来てよかったです。
42	自分で調べて発表することによって、より関心を持って授業にのぞめた。
43	アパレルの生産に関することについて流れから理解できた
44	アパレルに関するパワーポイントは色々な人の考えがわかって楽しかった。視野が広がった。
45	楽しい授業でした。
46	パワーポイントを久しぶりに制作したので大変でした
47	パワーポイントの発表を聞くのは面白かったです
48	先生の講義をもっと聴きたかったです。
49	分かりやすくて楽しかったです。

#### 4. 考察

- 1) テーマ設定でアパレルで販売アルバイトをしている学生は強い。メインマネキン、プロパー、ラグジュアリーブランドなどの業界用語を使い、設定テーマの文言にセンスがある。アパレルの裏事情にも関心がある。そのようなテーマが人気を集めてTOP7に選ばれている。
- 2) 衣料管理士や教職課程を履修している学生は、一般の人々が理解しやすい繊維や布地、文化、コーディネーター、歴史などをテーマとして選び、聞きものとしても面白い。
- 3) テーマの設定で双方向の指導が必要な学生が約1割。OKを出すまで2週間では足りない。また、無理なテーマを設定した場合、レポート提出にまで至らない。
- 4) 6コマのプレゼンテーション資料で口頭発表の文言が無くても調べた内容は理解できた。当初、インターネットの写しも可能と懸念したが、内容の取舍選択で編集している。
- 5) 口頭発表はできるだけするように促し、その意図を汲んで挑戦する意識の高い学生が居た一方、発表当日に欠席する学生も数名いた。発表しなくても休まない対策を練らなくてはならない。発表を辞退しなかった学生は36名、当初予想の20名を超えていたので発表時間の確保に苦心した。
- 6) あらゆることを想定し、発表辞退の機会を設けたが、辞退した学生の後悔の念が懸念された。
- 7) 授業アンケートの記述について近年思うこと、本学の学生の特徴か、または現代の若者の特徴か、読み手が喜び感動し、これは本心なのかと疑いたくなるほど上手な記述がある。スマホ・メールのやりとりで書き言葉が上達しているか、他者を否定して自身の考えを述べることができるのか憂慮する。
- 8) アクティラーニングを仕掛けるためには教員もアクティブにならざるを得ない。学習活動フローチャートの三分の一は教員の活動で、履修者全員と双方向活動をしなくてはならない。

#### 5. おわりに

学生自ら興味を抱くアパレルに関する調査課題でアクティブラーニングを実施した。レポート提出までのプロセスで学生が行った能動的活動は、テーマ設定、調査・研究、発表テーマの投票、プレゼンテーション資料の作成、発表準備、発表と質疑応答、発表の評価であった。学生は各々の各自の就職志望や経験に則したテーマ設定をしていた。アパレル志望の学生はアルバイトの経験を活かした業界用語を引用し、アパレル業界の裏事情を知ろうとした。また衣料管理士課程を履修している学生は繊維材料に着目し、教職志望の学生は文化・コーディネーターなど一般人が受け入れやすいテーマを設定していた。アパレルに関するテーマ設定には学生の関心事とその度合いが反映することが解った。この度の学習活動を踏まえて今後は出題と提出時期の検討、テーマ設定における助言、発表と質疑応答の促進、発表評価方法を検討し再度の実施を試みたい。特にe-kaseiは今年度で使用を終了するのでアンケートの代替案を講じる必要がある。数年来、好利用させて頂いたLMSのe-kaseiに関わる皆様に感謝の意を表す。

#### 注

- 1) 市丸雄平「ICTを用いたアクティブラーニングマネジメントシステムの開発」教育改革推進経費予算成果報告書 (2016)
- 2) 田中早苗、高久舞衣「被服実習におけるLMS導入の実践と評価」東京家政大学研究紀要2 自然科学 Vol.54,35-39頁 (2014)